

|||||

同じ定規に乗れたなら

If I find the line you stand

|||||

同じ定規に乗れたなら

小難しい理論だとか

ポリシーだとかは聞き飽きた

きみはやたら大げさな言葉を使うけど

残念ながら

少し言葉は違っても 考えていることはぼくと大差ないね

そう きみもぼくも大差はない

もし、同じ定規のうえに乗れたなら

ぼくが見る景色は

たぶん同じさ

並べて辿って

言葉を並べよう。

この気持ちの輪郭を辿って。

形があれば名前ができる。

名前があれば理解ができる。

理解ができたら……

ひょっとしたら、友達になれるかもしれない。

朝が来ると

自分の気持ちが怖いんだ。

この気持ちは夜ごとひとり世界中をそぞろ歩いては、

とんでもないイタズラをして帰ってくる。

だから、朝がくる度、自分の気持ちにがっかりさせられるんだ。

ワク

わたしはいわば透明な流体で

枠がなければカタチが保てない

枠なしのわたしは鏡さえ映らない

だからわたしに枠を枠を

願わくばあの子と違うだとか困惑しないような枠を

誰かに迷惑かけない程度の存在感を醸し出す枠を くれませんか。

まるになりたい

角を立てないように、丸く、丸くなりたいな。

でも、ボールがそうであるように、

水たまりに投げ入れられたら波風も立つし、

転がった先にトゲがあったらばちん、と割れてしまうんだろな。

自分では、どうすることもできないままに。

底を打つ夜

ひんやりとした夜の空気

遠ざかる電車の音

ヘッドライトに照らされたヒヤシンス
うなだれるナルキッソス

右手の温もりだけが足りないよ

それさえあれば完璧、なのに

恋のカケラ

気合を入れたネイルから 恋がひとつ、飛んでった

すぐに跳ね返されたその恋を

ブーツのかかとで丁寧に踏み潰して

悲しみ行きの電車に乗ろう

もう二度と来ない この駅から

恋のカケラをふりまきながら

救難信号

ガタゴト ガタゴト 電車は走る

ここにいるのは時間に囚われた遭難者たち

おのおのの手にした 唯一の希望

ケータイ

iPhone

T 9

フリック

いるべき場所へ

あるべきワタシへ

助けを求める 救難信号

じっと見つめる この世界の外

ツイートボーイ／ツイートガール

あの子はツイートガール

どんなことにもめげたりしない

悲しみはそっと TL に流し

何事もなかったかのようにまた前を向く

あの子はツイートガール

きらめくネイルがほら

今日も楽しげにつぶやいている

あの子はツイートボーイ

ファッションもコミュニケーションもファストが信条

自分の人生さえ TL に流し

その風にひとり酔いしれる

あの子はツイートボーイ

誰の手も届かない場所から

今日もひとり勝利のつぶやきをあげる

2 時間半の旅

鳴らない携帯 放り投げて

2 時間半の旅に出る

星とネオンと街灯に照らされて

鳴り止まない頭の中の言葉に 耳を澄ます

このままで

ひとりきりのこの夜に

わけもなくこともなくさりげなく わきあがってくる

「このままでいいや」

そんなはずではないはず、

なのに。

予定調和の夜

予定調和の囁きが やさしく耳朶を撫でる夜

全てを知っていた気になっていた 外では黒猫が啼いていた

熱っぽく 憐れむように

冷やかに あざ笑うように

6 畳和室の片隅で

きみを想ってうたう歌が

今夜きみが見る夢のバックグラウンドミュージックに

なればいいなと ぼくはうたう

あの歌

どんなに泣ける歌よりも

あのヘタクソな鼻歌を

もう一度聞きたいと

気づいてしまったそんな夜

その事実が

なにより泣ける

そんな真夜中

終わるために始める

低くたれこめる雲に舌打ちを

聞く価値もないニュースに無視を

溢れそうな溜息はネクタイで締めあげて

宵越しの疲労感はスーツで隠して

さあ、ドアを開けよう

今日という日を、終わらせるために

どこかへ。

夕暮れの輪郭をなぞるように飛ぶ飛行機に、無意識に「連れて行って」と思った。

どこへ、ではなく、どこかへ。連れ去ってほしいと。

空が暮れるように悲しみに暮れることができたなら

それは美しいことだけど そうもいかないから

そっと心のページを繰る

塗りつぶしたところや 破けたところだらけの

でも自分だけのこのページに

今日もまたひとつ 新しい悲しみを 書きつける

いつかの未来

流れていくコトバを眺めていたら

自分のコトバを忘れてた

流れ星につぶやくはずの

いつかの未来へのささやかな祈りも

さよなら、さよなら

さよなら、さよなら、また会おう

この道が近くなることはないけど

だからといって遠のいてしまわないよう祈るよ

さよなら、さよなら、また会おう

さよなら、さよなら、優しさよ

もしも、うっかり

声を嗄らして叫びたいけど

もしも、うっかり、なにかの間違いで

届いちゃったりしたら

どうしたらいいかわからないから やめとく。

求めてないんだ、そういうのはね。

同じ定規に乗れたなら
<http://p.booklog.jp/book/66747>

著者 : amatasu

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/amatasu/profile>

感想はこちらのコメントへ
<http://p.booklog.jp/book/66747>

ブックログ本棚へ入れる
<http://booklog.jp/item/3/66747>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ